

## 2006年度 日本文化人類学会 第7回理事会 議事録

日時：2007年3月27日（火） 14:00～17:00

会場：東京外国語大学本郷サテライト

出席者：須藤、大塚、小田、春日、窪田、栗本、スチュアート、棚橋、富沢、永渕、松田、森山、山本

委任状提出：赤堀、上杉、瀬川、田中、松岡、三尾、吉岡、和崎

欠席者：関

### 〔承認事項〕

1. 前回（2006年度第6回）理事会議事録について訂正があれば4月3日までに事務局に連絡することとした。

### 〔報告事項〕

1. 会長報告
  - ・国立民族学博物館との連携に関する打ち合わせの場を持ったことを報告。
2. 庶務理事報告
  - ・新入会員（10名）につき、総務会で入会を承認したことを報告。
3. 総務理事報告
  - ・3月16日に日本学術会議主催のシンポジウム「これからの日本の学協会のあり方」に出席したことを報告。
4. 広報理事報告
  - ・3月21日に国立情報学研究所の電子図書館サービス連絡会議に出席し、機関リポジトリを巡る情報学研究所の扱い方について説明を受けたことを報告。
5. 各種委員会報告
  - ・『文化人類学』編集委員会：72巻1号の進捗状況について報告。
  - ・JRCA編集委員会：Vol.7の進捗状況と、英文校閲を新たに専門家に依頼したことを報告。また、前回理事会において、目次では研究ノートの区分を設定しないと決定したが、研究ノートが2本に増えたため目次で区分を設定することを提案、承認された。
  - ・国際連携委員会：WCAAで院生ネットワークを立ち上げようとする動きがあることを報告。本学会から参加する院生の公募、選定方法について意見交換が行われた。
  - ・研究大会：第40回研究大会報告を回覧。欠席の和崎理事に代わり小田理事より、第41回研究大会の参加者数等について報告。大塚理事より、第43回研究大会の開催が国立民族学博物館に決定したことを報告。
  - ・地区研究懇談会担当委員：永渕理事より、中部地区研究懇談会の180回記念シンポジウムの開催を報告。
  - ・学会賞選考委員会：小田理事より、学会奨励賞について4月中に理事会メーリングリストで委員会が選考した候補者の報告、承認を行う方向であることを説明。
  - ・社会調査士標準カリキュラム検討委員会：3月24日に委員会を開催したことを報告。
  - ・『文化人類学中事典』編集委員会：編集会議を本日開催したことを報告。

### 〔審議事項〕

1. 2006年度事業報告・2007年度事業計画案について
  - ・小田理事より、資料に基づき説明があった。担当理事に各項目の確認を依頼、4月中に修正版をメールで配信することとした。また、WCAAの2007年度計画に関し、院生ネットワークについて次回理事会までに資料をメールで配信することとした。
2. 2006年度決算・2007年度予算案について

- ・棚橋理事より、資料に基づき説明があった。次回理事会で監査後の決算、及び予算案の再提示を行うこととした。
3. 次年度「実践人類学連携事業案」について
- ・須藤会長より、すでに前期理事会が応用・実践人類学に関する検討作業グループに対して国立民族学博物館との事業連携の可能性に関する提案を求めており、前回の理事会ではそれに基づいて検討作業グループから提案がなされたという経緯説明があり、前回の理事会では前期理事会からの引き継ぎ事項を十分に踏まえた審議を行わなかったことについて謝罪があった。その上で、前期理事会の方針を引き継ぐことを確認した。
  - ・栗本理事より、作業グループから提出された議案書と事業案について説明があった。議論の結果、来年度以降3年間にわたる計画であることを明記する等、文言を調整の上、議案書と事業案が承認された。また、事業案については2007年度事業計画に盛り込むことが承認された。なお、年度毎の事業報告提出を求めることを確認した。
  - ・理事会外に連携事業実行委員会を設置すること、委員の人選は栗本理事に一任することが承認された。
4. 機関リポジトリへの対応に関する『文化人類学』の利用許諾について
- ・山本理事より、資料に基づき説明があった。議論の結果、文言を調整の上、法的チェックを経て再度メールで配信、次回理事会で再提案することとした。
5. 研究大会の参加・発表の電子登録について
- ・山本理事より、資料に基づき説明があった。実際に実施する第42回研究大会開催校の京都大学担当者が資料を読み、質問があれば大塚理事・山本理事へ問い合わせることを確認した。また、配付資料の2008年度研究大会より『研究大会発表要旨集』（抄録）をウェブ出版することについての周知文書を『文化人類学』72巻1号に掲載することが承認された。
6. 日本文化人類学会倫理綱領策定のための素案について
- ・富沢理事より、資料の説明があった。素案について意見交換を行い、倫理綱領策定を目指すことを確認した。
7. 澁澤賞選考委員の推薦について
- ・総務会提案の説明があり、議論の上、推薦候補者を決定した。各推薦候補者に会長が内諾をとった上で澁澤民族学振興基金に対し推薦することとした。

以上